

1. 教科として大切にしていること

国語科では、第29次の研究（2017～2018年）において、情報化が進む社会的背景との関係から、「根拠に基づいて論理的に考える力」「情報が持つ意味をクリティカルに考える力」の育成をテーマに掲げ、研究を進めてきた。その歴史をもとに、本次研究では、根拠をもってじっくり考える力の育成のため、本文を分析的に詳しく読ませることを一つの大きなテーマとして取り組んでいる。この力を育むための活動をさせるには、本文を一読しただけでは不十分で、言葉と言葉の関係や述べられている内容の因果関係などをさまざまな角度から分析できるよう、何度もじっくりと本文を読ませなければならない。そして、他者に自らの言葉できちんと伝える能力を養うための手立てが必要である。

しかし一度読んだものを、何の手立てもなく、ただもう一度読みなさいと指示しても、初読のとき以上に興味をもって生徒が読むことはほとんどない。そこで本校国語科では、学習の過程で必ず本文を読み込まなければならない課題を、生徒に提示するようにしている。例えば、生徒に対し、「なぜ～なのか」という課題だと、本文から答えとなる部分を探し出して終わってしまう。しかし「文章における効果」を考えたり、「2つの文章を比較」したりする課題であれば、何度も本文を読むこととなる。生徒は課題に取り組むことに集中しているが、その過程で、本文を読み込ませるという教師の狙いも達成されることを目指すのである。そのため、本文を場面や段落で区切り、順を追って読んでいくことは極力避け、文章全体を俯瞰的に読ませる課題づくりに努めている。

上記のような課題に取り組むことで、文章全体の構造や言葉と言葉の関係を見出せるようになり、それは根拠をもってじっくり考える力の育成へとつながっていく。そして、論の展開の仕方がつかめるようになると、それが妥当かどうかの検討ができ、クリティカルに考える力が発揮されるようになっていくと考えている。さらに、発展的な取組として「自分ごとにつなげて考える」という点も意識させている。このような課題を単元に1つ、本次研究においては特にパフォーマンス課題を中心に、意識して実践してきた。また、他者に発信することで、新たな学びを得ることができ、自らの力を振り返り、改善し成長へとつなぐことができる。と考える。

2. 教科研究のあゆみ

国語科では、「論理的に考える力」を「教科の本質」「資質・能力」のどちらにも共通する重要な力と捉え、育成に注力してきた。また本校はこれまで、対話的な授業を大切にしてきた。国語科では、ただ正解を探すだけの言葉のやりとりではなく、対話を通して考えを構築したり、自分たちの考えを相手に伝えるように説明し、相手の主張を理解しようと聞いたりする姿勢と力を育成することを目指している。そのためには生徒がその力を発揮できる場面設定が必要である。国語科では、それができる問いを「教科の本質」に迫る問いであると考え、さまざまな活動をさせながら、問いの開発を進めている。

そのため、本校の研究と国語科の「論理的に考える力」の育成をどのように進めてきたか確認し、方向性

を示したい。

本校の研究テーマについて	研究テーマと国語科のかかわり
第 29 次研究テーマ 2017～2018 年度 社会の変化に対応できる生徒の育成 サブテーマ 対話的な学びを通じて資質・能力が伸びる授業	・本校で育成すべき「9つの資質・能力」を設定し、その変容をみる指標としてルーブリックを作成した。その中で、特に重視する資質・能力として〔根拠に基づいて論理的に考える力〕〔情報をもつ意味をクリティカルに考える力〕〔相手の意見を理解するために聞く力〕〔相手が理解しやすいように話す力〕の4つを取り上げ、授業を行った。
第 30 次研究テーマ 2019～2020 年度 社会の変化に対応できる生徒の育成 サブテーマ SDGs を核に資質・能力が伸びる取組をめざして	・資質・能力及びルーブリックの見直しを行い、その中の「「なぜそうなのか」を考える力」「本当にこれでいいのか」を考える力」が論理的に考える力にあたることを考え、その育成に取り組んだ。 ・【根拠】【じっくり・いろいろ】を軸に、STEP や他教科で生かされる力を育成していくこと、そしてそのための方法をより明確化し、系統的に学習を進められるようにした。
第 31 次研究テーマ 2021～2023 年度 社会の変化に対応できる生徒の育成 サブテーマ SDGs を核としたカリキュラムマネジメントの実現	・論理的に考える力にあたる【根拠】【じっくり・いろいろ】を軸に据えた上で、STEP や他教科で生かされる、教科横断的な視点から力を育成していくこと、そしてそのための方法をより明確化し、系統的に学習を進められるようにすることを目標とした。

3. 資質・能力の育成を図る手立て

(1) 8つの資質・能力と国語科

国語科では、【根拠】【じっくり・いろいろ】を軸として授業を組み立てている。文章を読み内容を理解していくことはもちろん、文章の書かれ方、文章の読み方に着目していくために、「本文へ戻る」ことをくり返し行っている。そのため、何度も本文に戻って読まなければならないような課題設定を心掛けている。また、国語で育成していく資質・能力は【根拠】【じっくり・いろいろ】を重要視するが、その2つだけではない。

●「この考えはどこから来たのか」「なぜそうなるのか」と考えのもととなることを示す。【根拠】

●「本当にこれでいいのか」「ほかに良い表現はないのだろうか」と考えや本文に対して疑問を持つ。

【じっくり・いろいろ】【問題発見】

●より効果的な表現方法を考える。(詩、俳句、作文、プレゼンなども含む)【アイディア】

●疑問に対して本文を再読したり、調べたりしたことをもとに検討し、解決策を提案する。【問題解決】

●学習を振り返り、成果と課題を整理することで自身を評価する。【振り返り】

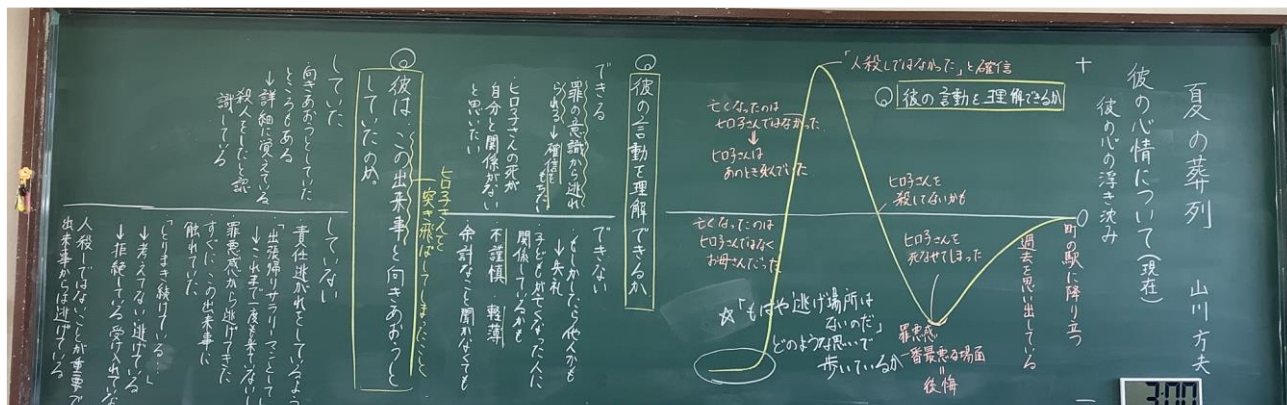
●グループで学習する中でコミュニケーションをとり、課題に取り組む。【協働】【伝達・発信】

●自分の思考を相手に示す。また、より効果的な表現や発信方法を考える。【伝達・発信】【アイディア】

国語科では資質・能力の育成を以上のように考え、授業やパフォーマンス課題において様々な課題を提示している。以下は、授業で行った課題の一部である。

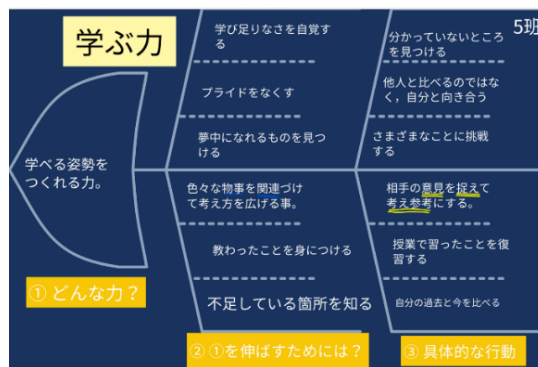
1年生では、説明的な文章「自分の脳を知っていますか」の授業において、筆者の根拠と考えを関連づけて読み進める学習を行った。この学習を受けて、「パンと米のどちらを推すか」と「新聞とテレビのニュース、どちらを見るか」のどちらかを任意で選択させ、根拠を明確にした意見文を書く課題に取り組んだ。読み手が正しく理解できるよう文章の構成を考え、【伝達・発信】の資質を養うため、構成メモを取り、ロイロノートによる下書きを行った。そして、【じっくり】と自分の文章を読み、「書く、消す、直す」を繰り返すことで文章を整えていった。また、タブレットを用いて情報収集をする際、その情報が根拠となり得るのか、根拠の客観性、自分の意見と根拠との整合性についても考えた。そして【振り返り】として推敲、グループで読み合わせを行い、互いに評価し合い、根拠を明確にした伝わりやすい意見文を完成させていった。

2年生では、「夏の葬列」を学習した際、主人公である彼の心情を考えた後、「彼の言動を理解できるか」という課題について考えた。彼のこれまでの言動を自分自身と比較し、自分だったらと考えた。その上で、「彼はこの出来事（ヒロ子さんを突き飛ばしてしまったこと）と向き合おうと思っていたのか」について考えていった。①「心情を読み取り」②「彼の言動を振り返るために」③「書かれていない彼の思いを読む」という課題に取り組むことで、何度も本文に戻り、本文の記述を手掛かりに考えることで、自分なりの【根拠】を示すことができたのではないと思う。



次に「学ぶ力」では、単元のまとめとして「自分たちが考える『学ぶ力』とは何か」という課題を出した。班で考え、ロイロノートのシンキングツールを用いて作成と発表を行った。本文をもとにしながら考えを出し合い資料をまとめていく姿があった。また、発表を行うことで【協働】【伝達・発信】の力も育成させられるものと考えた。しかし、生徒自身の発表を見る目については、まだまだ課題が見られる。資料の作り方や話し方などが注目され、発表の内容への評価はあまりできていない。【伝達・発信】の観点で見えていくと見せ方や話し方も大切なことではあるが、STEP とのつながりを考えると内容に対して意見し評価できる生徒も育成していくべきだと考える。

3年生では、説明的な文章「AIは哲学できるか」の単元のまとめとして、「AIを附中の授業に導入するなら」をテーマにしたプレゼンテーション（以下、「プレゼン」とする）をおこなった。プレゼン制作において



は、文章から分かる根拠に基づき、それぞれの案を持ち寄った上で、プレゼン共有機能で作業を進めた。また、実際の授業の中で AI が導入できる可能性がある場面など、自身の生活とリンクして場面を想定させ、自分ごとにつなげていった。さらに【伝達・発信】の資質・能力の育成のため、聴き手を意識したプレゼンをテーマに、STEP との連動を意識させた。文章の根拠と自身の生活とを関連させることで、より深い読みができるようになり、聴き手の興味を惹くプレゼンとなった。この課題によって、【伝達・発信】とともに【根拠】の資質・能力の育成にもつながったと考える。

次に、漢詩の単元のまとめとして「実生活に関連した漢詩づくり（【アイディア】の資質・能力の育成）」をおこなった。ループリックを示した上で、生活の一場面を切り取り、白文・訓読文・書き下し文、さらにイラストを挿入し、表現させた。しかし、昨年度までの生徒の様子から、知識の獲得にこだわり過ぎるあまり、時代との乖離によって漢文に対し苦手意識をもつ生徒が多かった。ただ、知識の定着を意識させつつも、生活にリンクさせることで、言葉を現代の生活の一部とつなげて考えることができた。振り返りからも、「日常との関係をいかに見出すかが大事だということが実感できた」という内容も見られた。当たり前のように使っている言葉の背景や魅力を感じることで、自身の生活に改めて向き合うことができる生徒もいた。

（２）STEP とのつながり

国語科では、令和 3 年度より教育出版の『伝え合う言葉 中学国語』を採用している。この教科書は、「持続可能な未来を創るために」という単元が全学年に新設され、SDGs を軸に構成されている。

第 1 学年の『森には魔法つかいがある』、第 2 学年の『紙の建築』は SDGs と関連する教材としてとらえることもでき、STEP の活動にもつながる内容と捉えることもできる。STEP では「気候変動」「人・文化（防災）」「平和」を切り口にしており、これらの教材を扱うことで、「環境」「人・文化」へと目を向けさせることも可能である。

国語科では軸としている【根拠】【じっくり・いろいろ】の観点から、何を根拠として考えを示しているのか、その場の突発的な考えで発言したり、今持っている知識だけで考えたりするのではなく、本文に戻って広い視野で多角的に、じっくりと考えることを目指している。昨年度末、2 年生を対象に行ったアンケートで、「国語で身についた力が STEP での活動に生きたところ」について、「お互いの意見を深めるために、じっくり考えるとき」「根拠を持って考えたり、意見を出したりするとき」など、国語科が大事にしている資質・能力に関する記述が見られた。このことから、これまで授業で大事にしてきたことが STEP とつながっているものと言える。また、「考えをわかりやすく伝えたり、まとめたりするとき」や「文章の推敲」など発表に関わる場面で【伝達・発信】していくときに力が発揮できたとの記述も多数見られた。これらについては、授業の中でスピーチや課題に対しての考えをプレゼン資料にまとめ発表する機会をとったり、作文を書いたり、自分の考えを文章で表現したりしてきたことが、STEP の活動で生きているものと考えられる。

また、「STEP で身に付いた力が国語の授業でも発揮できましたか」との質問に対し、約半数の 46.8% の生徒が「はい」と答えている。具体的な内容としては、

【根拠】【じっくり・いろいろ】

「自分の意見を本文（資料）などの事実を根拠に、みんなに示す場面」「根拠を示しながら説明する場面」

「STEP ではじっくり色々考える力がついたので国語でもじっくり色々考えることができたと思う」

【伝達・発信】【協働】

「考えをわかりやすく伝えたり、まとめたりするとき」、「文章の推敲」

「班で意見を言い合ったり，班で活動したりする場面」，「班の人と協力して話し合いを進めていく時」など，国語科が大切にしている【根拠】【じっくり・いろいろ】に加え，【伝達・発信】【協働】の資質・能力が，STEP と十分につながっていることがうかがえる。

4. 実践例

（１）主題（単元・題材）名 『紙の建築』（教育出版『伝え合う言葉 中学国語 2』）

（２）目標

- ①情報と情報との関係の様々な表し方を理解して使うことができる。 [知識及び技能]
- ②本や文章などには，様々な立場や考え方が書かれていることを知り，自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かそうとしている。 [知識及び技能]
- ③目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て，内容を解釈できる。 [思考力，判断力，表現力等]
- ④文章を比較するなどし，文章の構成や論理の展開，表現の効果について考えることができる。 [思考力，判断力，表現力等]
- ⑤情報と情報との関係について理解し，学習の見通しをもって考えたことを説明しようとしている。 [学びに向かう力・人間性等]

（３）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む力
・情報と情報との関係の様々な表し方を理解して使っている。 (2)イ) ・本や文章などには，様々な立場や考え方が書かれていることを知り，自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かそうとしている。 (3)エ)	・「読むこと」において，目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て，内容を解釈している。 (C (1) ウ) ・「読むこと」において，観点を明確にして文章を比較するなどし，文章の構成や論理の展開，表現の効果について考えている。 (C (1) オ)	・粘り強く情報と情報との関係について理解し，学習の見通しをもって考えたことを説明しようとしている。

（４）STEP との関わり

①各教科としてのとらえ

国語科では，STEP の活動に向けて，SDGs の要素を取り入れた授業を計画的に配置しながら，「言葉による見方・考え方」を働かせる授業を実践していくことになる。

STEP では，日常の学校生活では触れることのない人や資料と出会う機会が増えるため，その準備を授業の中でしていかなければならないと国語科では考えている。特に正しい情報を読み取っていく資質・能力は国語科で重点的に育成していく必要がある。その情報は本当に正しいのか，あるいは客観的に見て，自分たちの説明に説得力があるのかといったことを，生徒自身が考えなければならない。資質・能力の 1 つである

【じっくり・いろいろ】を育成するということである。そのうえで、自分たちなりの【根拠】をもとに【伝達・発信】していく。これまでの研究で大事にしてきた〔根拠に基づいて論理的に考える力〕〔情報をもつ意味をクリティカルに考える力〕をさらに伸ばし、成果を生かしながら論理的かつクリティカルな考え方が身につけられるような授業の開発に取り組んでいく。

②育成したい資質・能力について

本単元の学習は、説明的な文章の読みを通して、生徒1人ひとりの考えによってもたらされた「情報」を分類し、発信・共有する活動が主となる。情報を分類する中で、自分たちなりの【根拠「なぜそう考えたのか」】を明確にし、【伝達・発信】する力を育成したい。そのためには、グループ内で互いに思考を巡らせる【協働】も必要不可欠となる。3つの資質・能力を連動させていきたい。

（５）指導について

本単元においては「文章（作品）を通した自分とのつながり」をテーマに授業をおこなう。説明的な文章の構成・構造等には軽く触れる程度で、説明的な文章「を」学ぶのではなく、説明的な文章「で」学ぶことを意識させ、今後の説明的な文章の読みにもつなげていきたいと考える。説明的な文章に対する生徒のイメージは、「堅い」「読んでいて面白くない」「どうしても他人事としてしか読めない」（過去の生徒のアンケートから）といったものが大半であった。その中で今回は、説明的な文章から「どう自分との関係を見出すか」に重点を置き、別の角度から説明的文章を見つめる一つのきっかけにしたい。

現代社会では、言ってしまうと「自分とは関係ない」ことで溢れ、知らず知らずのうちに毎日が過ぎていく。新型コロナウイルスの影響も重なり、人とのつながりが希薄になっている時期もあった。しかし、現代社会を生き抜く上で、他者とのコミュニケーションは大前提となる。一見すると無関係なものから、どう関係を見出していくか。中学2年生という多感な時期で、他者とのつながりに悩む生徒も出てくる。そんな中で、さまざまな「つながりを見出す」ことについて授業を通して考え、将来につながる力を育成していきたい。

最終的に、「説明的な文章を読む価値」について考えることを通して、思考力や想像力を働かせ、他者に発信する表現方法を学ぶとともに、本校が独自に行う探究学習（STEP）の取組と連動させていきたい。

第1時では、『紙の建築』を通読し、これまでに学習した説明的な文章（『日本の花火の楽しみ』『水の山富士山』）との共通点や相違点を整理する。文章の構造や筆者の考え方など、特に細かい指定はしない。これまでに学習したことをもとにさまざまな視点から比較していく。

第2時では、「筆者が本当に伝えたいことは何か」をテーマに意見を交流する。まずは、個人で今作品におけるキーワードを3つ挙げ、ペアで共有する。自分たちが挙げたキーワードと筆者が伝えたいことは連動しているのか、連動する必要があるのか、などの視点から「本当に」伝えたいことは何なのかを全体で探っていく。

第3時では、この「説明的な文章を読む価値」について考える。その上で、『紙の建築』（文章）と自分とのつながりを見出していく。筆者の考え、日常、経験、知識、生活など、さまざまな面から文章と自分とのつながりについてじっくり考える。

第4時では、個人で考えた『紙の建築』（文章）と自分とのつながりを発表する。他者の視点に触れることで、自らの考えも客観視できる。どうつながりを見出しているのか、ロイロノートの共有ノートを活用

して交流していく。その後、班別にシートをランダムに配り（1・2・3班に同じ15枚、4・5・6班に同じ15枚、7・8・9班に同じ15枚。学年の中からランダムに選んだ計45枚のシートを利用する予定。）、傾向について分類する。

第5時・第6時（本時）では、前時で共有した個人の考えを、班で再度「共通する傾向」と「異なる傾向」などに分類する。どのような視点で分類したのか、また分類したものの中からもさらにつながりを見出すことはできるのか、各班の様子を観察しながら進めさせる。その後、全体で3班ずつ発表共有し、分担箇所が同じ班での比較を行う。同じ内容のシートであっても、ちがう視点からまとめられているものはないか、新たな気づきにつなげたい。最後に、活動を通して得られたことや得られた視点など、これからにつながる振り返りにしたい。

第7時には、発表が残っている班がいれば行い、最後に「説明的な文章を読む価値」について考えさせる。個人がそれぞれどこに価値を見出しているのか、はたまた価値を感じられないのか、などこれまでの活動をもとに振り返る。うわべだけの解答にならないように、そう考える根拠を自分の言葉で正しく言わせたい。そして、新たな作品との出会いへとつなげていきたい。

（6）指導と評価の計画（全7時間）

○「評定に用いる評価」

●「学習改善につながる評価」

時間	□ねらい ■学習活動	知	思	態	評価方法	育成したい 資質・能力
第1時	□通読し、既習内容である説明的な文章（『日本の花火の楽しみ』『水の山 富士山』）との共通点や相違点を捉える。 ■構成や展開の違いを比較してまとめよう。	●	●		●ロイロ ノート	【根】 【じ】
第2時	□他者と考えを交流した上で、筆者の思いを捉える。 ■筆者が本当に伝えたいことについて考えよう。	●	●		●発表 ●ロイロ ノート	【根】 【じ】
第3時	□文章と自身とのつながりを考えることで、説明的な文章の価値について理解できる。 ■文章と自分とのつながりについて考えよう。		●	●	●ロイロ ノート	【根】 【じ】
第4時	□前時のテーマについて個人発表するとともに、他者の考えに触れ、作品を見つめ直すことができる。 ■文章と自分とのつながりについて発表し、全体で共有しよう。		●	●	○発表 ○ロイロ ノート	【根】 【伝】
第5時 （本時） 第6時	□「文章と自分とのつながり」について、班員と傾向を分類することができる。 ■個人で発表した「文章と自分とのつながり」を共有して、新たな気づきを得よう。		○	○	○発表 ○ロイロ ノート	【根】 【伝】 【協】
第7時	□説明的な文章を読む価値について振り返る。 ■説明的な文章を読む価値について、振り返ろう。		○	○	●発表 ○振り返り シート	【じ】 【振】

※育成したい資質・能力の表記は省略した名称で記述している。

根拠 ⇒ 【根】，じっくり・いろいろ ⇒ 【じ】， アイディア ⇒ 【ア】

問題発見 ⇒ 【発】， 問題解決 ⇒ 【解】， 振り返り ⇒ 【振】

協働 ⇒ 【協】， 伝達・発信 ⇒ 【伝】

（７）本時の指導

①目標

- ・情報と情報との関係について理解し，考えたことを自らの言葉で表現できる。

〔思考力，判断力，表現力等〕

- ・他の班の発表を聴き，気づいた点について考えを深めるようにすることができる。

〔学びに向かう力，人間性等〕

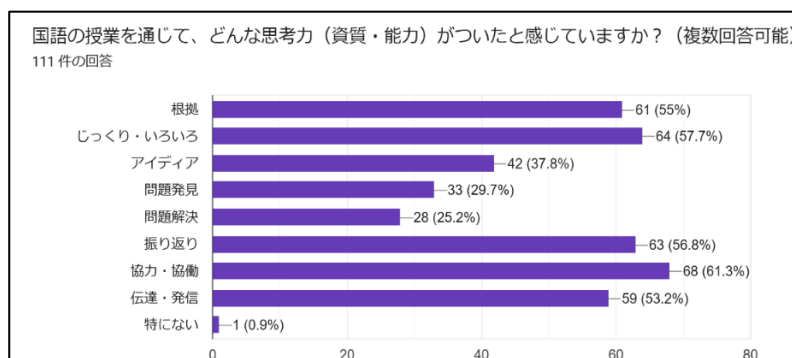
②指導計画（50 分）

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価	育成したい 資質・能力
1. 前時の続きと本時の流れを知る。	○前時で共有した内容を，ロイロノートの共有画面で確認させる。 ○つながりを考えた「視点」に共通点や相違点はあるのかを考えさせる。	
【課題】 「文章（『紙の建築』）と自分とのつながり」を共有して新たな気づきを得よう		
2. 担当箇所を班で分類する。 （ロイロノートの共有ノートで分類）	○前時に続き，自分たちなりの視点で分類して，発表の準備も進めるように声かけする。 ○ロイロノートの共有ノートを用いて，分類させる。 ○15 人程度の内容を 1 つの班で担当して分類させる。全 9 班の中で，同じところを担当する班が 3 ついる形をつくる。（分類の違いも比較させるため。） ◆班の中で，共通点や相違点について自らの考えを伝えようとしているか。（思）	【根】 【じ】 【協】
自分たちなりの根拠をもとに，分類したものを全体で共有しよう		
3. 班内で分類したものを発表する。（3 班ずつ）	○同じ箇所を担当する 3 班ずつで発表を区切る。 〈発表者〉 ◆情報の関係について，根拠や比較をもとに，聴き手を意識して発表しているか。（思） 〈聴き手〉 ◆耳を傾け，発表に対する気づきをイメージしているか。（思）	【伝】

3つの班の発表に対する気づきを共有しよう		
4. 3グループの発表における気づきを、ロイロノートの比較機能を使って班内で共有する。	○気づいた点について各班で交流させる。 ○発表内容を比較しながら、気づいた点が挙げられるように声かけする。	【伝】
5. 気づきを全体で共有し、疑問があれば発表者がそれに対しての考えを述べる。	○根拠が不十分なところや発表内容との比較から、疑問を投げかけさせる。 ◆各班の発表に対する気づきを自分の言葉で表現できているか。(思)	
6. 発表 → 気づきの共有	○学習活動の3～5までの流れを繰り返す。	【振】
7. 本時の振り返りを行う。 振り返りシートに本時の振り返りを記入する。	○次時の全班発表後に、最終的な振り返りをおこなう。 本時の現段階までで学んだことや得られたことなどを書くように促す。 ◆振り返りシートに、活動を通して得た学びを書いているか。(思・態)	

5. 成果と課題

本研究では、【根拠】【じっくり・いろいろ】については、生徒が意識できるような機会を授業で設け、一定の成果は出ている。自分の考えを説明したり、他の生徒の説明を理解したりする活動が無駄なく円滑に進むようになり、自分なりの根拠をもって発言する力や伝える力、または本文を根拠にして話す力などが向上してきたことを実感している。グループで考えたり、発言・発表したりする機会を、授業において数多く設定してきたことが、【根拠】【じっくり・いろいろ】といった資質・能力を高めることにつながったと考える。また、昨年度末、2年生に行ったアンケートでは、【根拠】【じっくり・いろいろ】だけでなく、他の資質・能力についても力がついたと感じている生徒がいる。「国語の授業を通じて、どの資質・能力が身についたと感じていますか(複数回答可)」との質問に対して、半数以上(最大61.3%)の生徒が【根拠】【じっくり・いろいろ】【振り返り】【協働】【伝達・発信】を選んでいることが、右のグラフからもわかる。



課題は【アイデア】【問題発見】【課題解決】の資質・能力に弱さが見られることである。先に挙げた3つの能力についても、さらに育成していけるような課題を設定していくことが、今後必要となる。また、【根拠】の値は高いものの、その情報が信頼できるものなのか、自分の考えに対して適切なものなのか、多くの情報を総合的に判断していく力も必要である。さらに、「本当に【根拠】となり得るのか」との視点を持たせ、【根拠】の質を高めていくことが必要となってくる。

STEP とのかかわりを考えたときには、グループで協力したり、発表したりすることが多いことから、【伝達・発信】や【協働】の資質・能力がついたと実感している生徒が多いようである。昨年度末（2022 年度）に行ったアンケートでは、「STEP を通して成長したと感じる「学ぶ力」の中で、各教科の学習に生かすことができるのは、どの教科のどんな場面だと感じますか？」との質問に対して、【根拠】【じっくり・いろいろ】とともに、【伝達・発信】や【協働】に関する記述が多数あった。

【伝達・発信】

相手に伝わり易く説明する 話し方を考える

他の人に自分の考えを伝えるために、まとめる 発表用のスライドを伝わり易くまとめる

正しく理解してもらえるように、相手に考えを伝える 主張や意見などをまとめる

【協働】

協力して班で活動するとき 班のメンバーと協力するとき 授業内の班活動で協力するとき

また、昨年の3年生の授業後に行ったアンケートにおいて「今後の学習に生かしていきたいこと」との質問に対しては、「STEP での活動につながる部分がある。他者を意識した発信を大事にしていきたい」との記述もあり、「国語科と STEP」をつなげて考えられる生徒もいた。

一方で、聴く側の姿勢を育成していくことも大きな課題であると言える。「資料が見やすかった」「きれいにプレゼンがまとめられていた」「声が聴きやすかった」などの記述が多く、内容面の評価をする生徒は極めて少ない。発表の内容面に目を向けさせる必要がある。それが本当に信頼できる中身であるか、しっかりと根拠をもって考えられた意見であるのかなど、どう評価するのかという視点を具体的に提示する必要性を感じている。それらが STEP での探究学習にも生かされるものと考えている。さらに、教師のフィードバックによって生徒の力は磨かれることを実感している。これからの研究に生かしていきたい。

〈参考文献〉

KI 教育出版株式会社：『伝え合う言葉 中学国語3 教師用指導書 教材研究編 上』教育出版。

MI 三重大大学教育学部附属中学校（2018）：『研究紀要 社会の変化に対応できる生徒の育成－対話的な学びによって資質・能力が伸びる授業－』第29集。

MI 三重大大学教育学部附属中学校（2021）：『研究紀要 社会の変化に対応できる生徒の育成－SDGs を核に資質・能力が伸びる取組をめざして－』第30集。

MO 文部科学省（2018）：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語科編』東洋館出版社。